

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月4日
札幌市立稲積小学校

1 本年度の重点目標

全ての子が安全に安心して過ごせる学校
合言葉 ～元気にあいさつ 笑顔でありがとう～

学ぶ力を育てる授業の創造

研究主題 「学びを切りひらく子どもの育成」

～仲間とともに課題を乗り越えることで全員が達成感の得られる授業～

- 課題探究的な学習
- 本物の経験（地域の自然を生かした体験活動の充実）
- 授業力向上に向けた研修の充実
- キャリア教育の取組（キャリアパスポート）
- わかる・できる・楽しい授業づくり…深い学び
- 学ぶ力育成プログラムのPDCA
- 学習評価の在り方（指導と評価の一体化）
- クロームブックの効果的活用
- まずは我々がワクワク感（ゲストティーチャー・出前授業）
- デジタル教科書

豊かな心を育てる教育活動

- 人間尊重の教育
- 命を大切にする取組
- 自己肯定感や相互承認を高める取組
- いじめの未然防止 早期発見・対応
- 思いやりと寛容にあふれた集団づくり
- 安心して生活できる環境づくり
- 気持ちのよい挨拶感謝
- 道徳授業の充実
- 共通ルールと約束
- いなづみ発表会

健やかな体を育てる教育活動

- 健やかな身体育成プログラムのPDCA
- 縄跳びやボール遊び等の運動の機会や場の工夫
- 家庭と連携した基本的な生活習慣の確立
- 怪我防止に資する健康安全教育の推進
- 食育の推進
- いなづみスポーツDAY
- 運動嫌いを作らない体育学習からの体力・運動能力の向上 体育専科

信頼される学校づくり

- 学校HP、すぐーるを活用した情報発信
- 参観懇談の充実と発信
- 服務規律の徹底
- 児童・保護者に寄り添いチームで対応
- 地域保護者ボランティアの充実
- PTA活動への連携・協力の充実 いなづみナツノユメ いなづみ雪あかり
- 実効性のある避難訓練の実施。緊急時対応の工夫改善
- 地域との連絡、連携の推進
- SCや関係機関との連携
- 幼稚園・保育園・中学校との連携（パートナー校との連携）

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|----------------|--|------|---|----------|---------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 「学ぶ力」の育成 | 「わかる・できる・楽しい授業づくり」がなされたか | B | <p>○教職員の専門性を活用し、5回の校内研修を実施した。個の専門性を教職員全体に広めることができた。</p> <p>○年3回「計算コンクール」に取り組み、基礎的計算力の向上に努めた。今年度は、計算コンクール前に「計算力アップ週間」を設け、練習を繰り返すことによって、分かる・できるをより実感できるようにした。</p> <p>○授業実践及び研究全体会を通して、課題探究的な学習における課題の設定や教材の提示の仕方について、全職員が問題意識をもち研修を進めることができた。</p> <p>△全体交流、小交流のあり方が課題として挙げられている。「主体的・対話的で深い学び」を構築していく上でどのような交流が必要なのかを追究していく必要がある。</p> | B | A |
| | GIGA スクール構想における一人一台端末の効果的活用がなされたか | B | <p>○今年度は、新しくまなびポケットのアプリ「オクリンクプラス」が導入され、そのアプリの情報を教職員で共有し、活用することによって、授業準備の効率化を図ることができた。</p> <p>○修学旅行・宿泊学習のしおり等のデジタル化により、子どもたちが創造的な活動に取り組む時間を保障した。</p> <p>○夏の気温が暑い日において、学校の畑にある植物の様子を個々のタブレットで撮影した後、教室でじっくりと様子を観察することによって、熱中症防止の安全面にも配慮することができた。</p> <p>○毎週金曜日、タブレットの持ち帰りを実施することで家庭でのタブレットの活用機会を増やすことができた。</p> <p>△学習における効果的活用が精査されてきたからこそ、クロームブックありきの授業ではなく、目的に応じて効果的に端末を使用できるようにしたい。</p> | B | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や計算コンクールを通じて、授業改善に取り組んでいる点が素晴らしい。引き続き、効果的なICT活用を含めて、研修を重ねてもらいたい。 ・学力の向上には、生活習慣が大切だと思います。校内努力だけでなく、家庭を巻き込んだ取組をさらに進めていただきたい。 | | | | |

| | | | | | |
|----------------|---|---|--|---|---|
| 「豊かな心」の育成 | 子どもたちの自己肯定感を高めることができたか | B | <p>○教員による即時評価をできるだけ行うことによって、子どもたちの自己肯定感を高められると考え、取り組んできた。その結果、児童アンケート「自分には良いところがあると思う。」の項目の肯定的意見が高まっている（7月結果、12月結果比較）。</p> <p>△「元気にあいさつ笑顔でありがとう」の項目の肯定的意見は、下がってきている（7月結果、12月結果比較）。合言葉や表示を様々な場面で使用し、子どもたちの目指す姿を全体で共有することで、あいさつの大切さや感謝の気持ち、友達に対する寛容さをもたせていきたい。</p> | B | A |
| | いじめの未然防止・早期発見早期対応がなされたか | A | <p>○全ての子が安全に安心して過ごせる学校となるよう「こころのシート」や「いじめアンケート」をもとに子ども一人一人と面談を行い保護者とも連携を図りながらチームで対応した。</p> <p>○7月から導入された「シャボテンログ」で、子どもたち一人一人の心と体の状態を的確にもれなく把握し対応できた。そして、「話したいボタン」による教職員の聞き取りによって、いじめの未然防止、早期発見につながったケースもあった。</p> <p>△児童のPCや携帯電話の利用も進んでいる。SNSなどによるトラブルも発生している。来年度は、情報モラル授業を効果的に行えるよう、指導の時期と内容について精査していくことで、指導の効果が表れると考える。</p> | A | A |
| | 社会・地域・保護者とつながる教育環境を作ることができたか | A | <p>○PTA主催 第3回「いなづみナツノユメ」、そして、第4回「いなづみ雪あかり」を開催し、子ども達や保護者、地域のつながりが生まれる場となった。また、今年度は、札幌市PTA広報誌まつりにおいて、「稲積小かわらばん2024」が、「札幌市教育委員会教育長賞最優秀賞」を受賞し、社会・地域・保護者とつながる機会を増やすことができた。</p> | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | <p>・「元気にあいさつ笑顔でありがとう」「自分には良いところがあると思う」の項目が肯定的であることから、子どもたちの自己肯定感の高まりを感じる・また、日常観察やアプリの活用による日常的な健康観察、地域や保護者と共に開催するイベント等により、学校だけではなく地域や保護者と共に、みんなで子どもたちを育てる姿勢を感じる。引き続き、この姿勢を大切にしていきたい。</p> | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|----------------------------|---|--|---|---|
| 「健やかな体」の育成 | 専科指導による、運動量増加がなされたか | B | ○跳び箱週間や鉄棒週間、マット運動週間を設定し、全学年が同じ時期に器械運動に取り組んだ。器具や用具の出し入れの時間が減り、授業中の児童の運動時間を十分に確保できた。また、休み時間の運動量を確保するため、バスケットボールやミニバレーボール、フラフープ等道具を体育館に設置することで、運動に触れる機会を増やした。ただ、休み時間、グラウンドに出て遊ぶ子どもの運動量には課題がある。来年度は、ミニマラソンコースをグラウンドに設け、休み時間、外に出て、体を動かす機会を増やしていきたい。 | B | A |
| | 外部指導者のサポートによる教育環境の充実がなされたか | A | ○車イスバスケット、フットサルなど、多くの外部指導者による体験活動が行われた。また、カーリング体験を活用することで、子どもたちの運動に対する興味関心を高めただけでなく、安全に専門的な学習を進めることできた。 ○3～6年生、にこにこ学級のスキー学習において保護者ボランティアを募り多くの方々の協力を得られた。そのため、安全で充実したスキー学習を実施することができた。 | A | A |
| 学校関係者評価委員による意見 | | ・外部指導者を招き運動に関する興味関心を高める機会を創出している点が素晴らしい。今後もぜひ継続してもらいたい。 | | | |
| 信頼される学校づくり | 子どもの発達支援の充実がなされたか | A | ○いじめ対策委員会を通して、組織的な体制で、いじめに対する対応を行った。担任に全てを任せるのではなく、職員やチーム、SC、SSW 全体で、対応した結果、児童の支援の向上につながった。 ○教育委員会、スクールカウンセラー、児童会館、デイサービス、手稲区子ども課、生活安全課、児童相談所等と連携を取りながら、児童の支援を行った。 △子どもの情報を積極的に発信し、悩みや困り感に即時対応し続けてきたが、保護者アンケート「保護者やお子さんにとって、不明な点を尋ねたり、相談したりしやすい学校になっている。」の肯定的評価が7月期に比べて12月期は、若干低下してきている。これからも参観懇談や個人懇談を継続しつつ保護者 web アンケートも活用し、稲積小学校が保護者にとって相談しやすい場所となることを目指していきたい。 | A | A |

信頼される学校づくり

| | | | | |
|-------------------------------|----------|---|----------|----------|
| <p>正しい情報を素早く伝え合う環境が整備されたか</p> | <p>A</p> | <p>○写真掲載についてプライバシー保護の観点から、鍵付きのページで公開していった。ホームページに毎週時間割をのせ、積極的に更新することにより、保護者への情報発信の場として機能が高まった。ただ、ホームページのトップページの写真の更新は、これからも進んで行う必要がある。</p> <p>○学校保護者間連絡アプリ「すぐーる」の運用により、教育活動にかかわる連絡、登下校の安全指導等、適宜迅速な情報発信が行われた。</p> <p>○「すぐーる」の欠席遅刻・早退連絡機能により、保護者の学校への連絡時間の自由度が高まった。遅刻から欠席への変更もすぐに担任につながり、素早い対応ができるようになった。</p> | <p>A</p> | <p>A</p> |
| <p>小中一貫した教育が推進されたか</p> | <p>A</p> | <p>○春の札教研事業の授業交流会や教員による生徒指導交流会、6年生児童の中学校見学、生徒会による説明会など、数多くの交流を実施できた。これにより、小中教職員の連携が明確になり、中学校生活を見据えた指導が小学校で行えるようになってきた。</p> | <p>A</p> | <p>A</p> |
| <p>幼保小の連携がなされたか</p> | <p>A</p> | <p>○新1年生がスムーズに学校生活をスタートできるよう、保護者や園との入学前の情報交流を積極的に行うことで、個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>○園の子どもたちを招待して、いなづみ発表会児童公開日の観覧を復活させた。また、1年生が園の発表会の観覧をしたり、園の子どもたちを招待して、遊びランドを開催したりするなどの交流を進めることができた。</p> | <p>A</p> | <p>A</p> |
| <p>地域との連携がなされたか</p> | <p>A</p> | <p>○交通ボランティアやスクールガードなど地域の方が子どもの登下校の見守りをしてくださることで、子どもの登下校の安全が確実に守られている。</p> <p>○スクールゾーン実行委員会を年2回開催した。また「すぐーる」で、保護者への登下校の注意喚起についての情報を実行委員会の方々にも配信し、情報共有・課題共有を行うことができた。子どもの安全な登下校のための協力体制について、迅速に対応することができた。</p> <p>○9月「地震後の津波」の屋上に避難する避難訓練を園の子どもたちと一緒に行った。的確に迅速に行うことができた。緊急時の対応について、地域と確認することができた。</p> | <p>A</p> | <p>A</p> |

| | |
|----------------|---|
| 学校関係者評価委員による意見 | <ul style="list-style-type: none">・いじの組織的な対応や関係機関との連携の他、保護者へ子どもの様子を積極的に発信する等、「相談しやすい学校」であることが伺える。また、幼稚園や中学校との連携も大切にしており、活動を共にすることで、少しずつ効果が見え始めている。引き続き、この姿勢を大切にしてもらいたい。・小学校は地域の中核として、中学校、幼稚園、保育園の橋渡しを期待しています。現場レベルでの交流が進むことに期待しています。 |
|----------------|---|